

夢アイデア マングローブ作戦

1. マングローブの転移性

マングローブ（英：Mangrove）というのは、亜熱帯地域の河口汽水域の塩性湿地に成立する森林のことですが、その生態系はとてもおもしろく、タコの足状に地表より上から斜めに根（支柱根）を伸ばすもの（下図）とか、果実として枝に下がっている時に早々と根と新芽をだし、やがて水面に落ちて流れついた新天地で根付いて仲間を増やしたりします。そのことを空想するうちに、その生態を、夢アイデアの成長に応用できないかと考えました。



2. 方々で開催され始めた「夢アイデア」

地下茎からタケノコのように新芽がでて森を増やしていくイメージ、果実が落ちて流れ着いた所に新たな森を形成していくイメージは、“夢アイデア”が方々で生まれ出るイメージと重なります。

平成20年には、鹿児島商工会議所、行政及び大分NPO大野川流域ネットワークが「夢アイデア発表会」、「夢アイデアコンテスト」を実施されました。近畿地方整備局では、「まちづくりのアイデア募集」を行っておられ建コン近畿支部が後援しています。九州、関東などの大学では、先生が学生に「夢アイデア」事業への提案・応募をさせておられ、そういった大学連携での“夢アイデア”もあり得ると思います。たとえば、20年の「お魚料理甲子園大会」は名乗りを上げた全国の漁場での“学生による料理コンテスト”の提案ですが、各地の海洋水産大学に呼びかけると実現性が高まり、それを水産関係者が支援し、観光関係や報道も乗り出すことでしょう。

3. 建コン協の支援

要は、建設分野とか社会資本整備にこだわらず、様々なテーマが、地域づくりに繋が

り、ひいては全国津々浦々が元気になってくれればいいわけで、建コン協としては中身に
応じて可能な支援を行えばいい。実行当事者であったり、支援者であったり、他の領域
(農業でも水産でも)への紹介者であったり、中身に応じて様々であろうと思います。

4. 夢アイデアの発展経緯

ここで、夢アイデアの足取りを振り返ってみましょう。

【夢： 芽から幹へ、幹から枝、樹木へ。大樹から森林へ】

- 1) 双葉が出た時代(募集開始の段階=平成14年時点)
- 2) 幹が伸びてきた時代(夢アイデアの蓄積。開始後3~5年目)
- 3) 幹から枝が生まれた時代(様々な成果の萌芽。活発化の影響で)
 - 第1枝=磨くことによってプロジェクトになる 研究会、行政等への反映
 - 第2枝=夢アイデア人の交流・NETWORKINGによる多様な可能性
 - 第3枝=アンテナ機能(市民の思いはどこに?)
 - 第4枝=アナウンス機能(その思いを社会に伝える。建コンの広報手段)
 - 第5枝=地域づくりの幅広い合意形成に資する
 - 第6枝=参加者の訓練や構想力涵養(人材育成)
- 4) 樹木から次は森に進化する時代

プロジェクトが次のプロジェクトを生んで深化・拡大・波及していきます。おそらく
終結はありません。今の取組は、大樹たらんことを自ら希求する運動であると同時に、
マングローブのように地下茎を張り、そこから芽を出して新しい森に成長する、その形
成を促す運動でもありたいと思います。隣の森は、私たちの手から離れた森で、応援し
たり見守ったりする立場になります。

空間的に他の森を創る(全国の支部が受け皿となっただけのこと)。

テーマ的に他の森を創る(水産関係、農業、など他分野への働きかけ)。

関東在住の方からの提案であれば、関東支部もその情報を共有し、(中身次第では)
相談にも乗れる窓口となっただけ、それが“マングローブ作戦”の第一歩で、この
ように広がって、全国津々浦々で夢が語られるようになれば、日本はますます元気にな
ってくることでしょう。